

WITHコロナ・POSTコロナ社会における学びの保障

教育長からのあいさつ



京都府教育委員会
教育長
橋本 幸三

例年よりも短い夏休みが終わり、2学期がスタートしました。全都道府県に緊急事態宣言が発出された1学期は、地域の感染状況等に応じた対応として、府立学校では、北部地域で20日間、南部地域で31日間の臨時休校を行いました。府内の市町村においても、同様の臨時休校が行われました。児童生徒や保護者、関係者のみなさまには、長期間にわたるご家庭での健康観察や学習をはじめ、様々な形でご協力いただきましたことに、改めて心より感謝申し上げます。

感染リスクを抑えながら学校教育活動を行っていくことは、決して簡単なことではありません。WITHコロナの時代にあって、修学旅行をはじめとする様々な学校行事や部活動が、中止や縮小を余儀なくされていることについては、大変心苦しく思っています。京都府教育委員会では、府立学校について、保護者のみなさまのご理解の下、可能な限り研修旅行をはじめ学校行事の実施に努めてまいりたいと考えています。

8月までに判明した府域の児童生徒の感染は、大半が家庭内感染によるものでした。今後も校内での感染を広げないために、「3つの密」を避け、手洗いや換気など「学校の新しい生活様式」を実践し、これ以上子どもたちの学びを止めることがないよう努めてまいります。

また、未知のウイルスに対する不安が、感染者や医療従事者、そのご家族への偏見や差別を生み出しています。学校においては、誤った認識や不確かな情報に惑わされることなく、正しい情報や科学的根拠に基づいて行動できる力をはぐくんでいかなければなりません。

さらに、スクールカウンセラーの派遣回数や心の居場所サポーターの全校配置など心のケアの体制充実を図り、子どもたち1人1人に寄り添ってまいります。

保護者のみなさまにおかれましても、子どもたちが偏見を持たないようにご留意いただくとともに、ご家庭での健康観察等に引き続きご協力をお願いいたします。

今年度は、新型コロナウイルス感染症への対応が最優先になっておりますが、4月には小学校で「新学習指導要領」が完全実施となりました。新しい教育の幕明けの年として、プログラミング教育や英語教育などにしっかり取り組んでいく必要があります。

さらに、小・中学校では1人1台のタブレット端末や通信ネットワークの整備が前倒しで進められています。新型コロナウイルス感染症が収束した後も、それらのICT機器を活用することにより、他の学校や大学・企業・外国などにつながる遠隔教育や、子どもの能力や適性など個々の状況に応じた教育を進めることができます。

長期の臨時休業を経て、「学校の集団の中で学ぶ」ことの大切さが改めて見直されています。京都府教育委員会においては、小・中学校を所管する市町（組合）教育委員会とも引き続き十分連携を図りながら、様々な状況の変化に柔軟に対応し、安全性の確保と学びの保障や心身の健康に向けた取組を進めてまいります。

みなさまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

安心して学習できる環境の整備 令和2年度4月補正予算

総額 11億600万円

新) は今年度から開始する施策
拡) は前年度より内容の充実や人員の増員を図る施策

※全校実施とは限らず、一部の学校や抽出実施が含まれます。

「学びの保障」事業費 5億5,400万円

学校の臨時休業による影響を最小限にとどめるため、児童生徒の学習保障を速やかに実施します。

新) 府立高校でのオンライン学習 (1億3,200万円)

- ・ YouTubeによるポイント解説動画の配信やグループウェアの活用により学習を支援します。



新) 読書を通じた家庭学習支援 (3,700万円)

- ・ 府内の全小学校（京都市除く）低学年児童及び府立特別支援学校小学部の児童向けの図書を各校に配布し、本の楽しさを早い段階から経験する機会を創り、児童の家庭学習を支援します。

新) 府立高校での教室分散授業の実施 (2億9,900万円)

- ・ 学校再開後の感染防止のため、教室を分散した上でICT機器を活用した遠隔授業を実施します。



新) 学習支援員の配置 (2,500万円)

- ・ 学習再開後の学習の遅れによるつまづき防止の補習に対応するため、学習支援員を追加で配置します。

拡) スマートスクール推進事業 (6,100万円)

- ・ 府立学校のICT環境の整備及び家庭の通信環境への支援により、オンライン学習を行える環境を整備します。

- ① 児童生徒用の1人1台タブレット端末の整備
- ② Wi-Fi通信環境のない家庭にモバイルルーターの貸出
- ③ 遠隔学習のため、学校のカメラやマイクの通信装置等の整備

スマートスクール推進事業費 6.100万円

府立学校のICT環境の整備及び家庭の通信環境への支援により、オンライン学習を行える環境を整備します。

府立中学校、特別支援学校（小・中学部）

拡) 児童生徒用の1人1台タブレット端末整備 (5,000万円)

- ・令和5年度までに順次実施予定であった児童生徒用のタブレット端末を前倒しで整備します。

新) 家庭学習等の通信支援 (920万円)

- ・就学支援事業の一環として、Wi-Fi通信環境のない家庭にモバイルルーターの貸出により、通信環境を支援します。



府立中学校、高等学校、特別支援学校

新) 遠隔学習等の機能強化 (180万円)

- ・自宅にいる児童生徒と遠隔でやり取りするため、学校のカメラやマイクの通信装置等を整備します。

心のケア緊急対策事業費 1億7.200万円

学校の臨時休業による児童生徒等の心身への影響を考慮し、心のケアを行う体制の充実を図ります。

拡) スクールカウンセラーの派遣 (1億600万円)

- ・児童生徒・保護者等へのカウンセリング体制の強化のため、派遣回数を拡充します。

拡) まなび・生活アドバイザーの派遣 (6,600万円)

- ・福祉関係機関等と連携したよりきめ細かな支援を行うため、派遣回数を拡充します。

学校衛生環境緊急対策事業費 2億7,500万円

感染防止対策を徹底し、安心安全な学校衛生環境を確保します。

- 新) 府立学校への衛生用品の配備 (1億2,700万円)
 - ・感染防止対策に必要なマスク、消毒液、非接触型体温計等を府立学校に配備します。
- 新) 特別支援学校スクールバスの増便 (1億3,000万円)
 - ・スクールバスの過密化を防止するため、運行を増便します。
- 新) 特別支援学校の空調整備 (1,800万円)
 - ・衛生環境を確保するため、空調設備の更新を実施します。



高校生等修学支援事業費 4,000万円

新型コロナウイルスの感染拡大による影響で家計が急変した家庭の高校生等が安心して学ぶことができる教育環境を確保します。

- 拡) 家計急変世帯への支援 (3,300万円)
 - ・収入の激減により低所得となった世帯を、対象に追加します。
 - ※家計が急変した場合には、随時受付を行っています。
- 拡) 一部給付の早期化 (700万円)
 - ・特に入学時の負担が大きい新入生に対し、4～6月分相当 (年間1/4) の前倒し給付を行います。

学校給食休止対策事業費 100万円

- 新) 臨時休業に伴う学校給食の中止によって生じた経費について、事業者に対して助成します。

文化・スポーツ施設 300万円

新型コロナウイルス感染症対策費 (山城郷土資料館・丹後郷土資料館)

- 新) 文化・スポーツ施設等における感染予防対策のため、サーモグラフィー・体温計・消毒液を整備します。

感染防止対策と教育活動の強化 令和2年度6月補正予算

総額 17億2,700万円

教育体制緊急強化事業費 9億4,200万円

児童生徒の学びを保障するため、必要な人的体制を強化します。

新) 教員の加配 (4億6,000万円)

- ・3密対策のため、小・中学校の最終学年(小6・中3)の少人数編成に必要な教員を配置します。

拡) スクール・サポート・スタッフの配置 (2億9,600万円)

- ・学校再開に伴う換気や消毒作業等の感染症対策強化や、授業準備で負担が増加する教員を補助するスタッフを配置します。

新) 心の居場所サポーター等の配置 (1億8,600万円)

- ・児童生徒の相談、学習支援等を行う心の居場所サポーター等を全校に配置します。

学校教育活動再開事業費 2億9,900万円

府立学校における感染症対策を徹底するため、必要な物的体制を整備します。

新) 学校における学習保障・感染症対策の実施 (1億9,200万円)

- ・自動水洗手洗機器や高温蒸気滅菌器の設置など、学校の実情に応じた対策を迅速かつ柔軟に実施します。

拡) 夏季の授業実施への対応 (1億700万円)

- ・夏季の授業実施に必要な空調管理を行うとともに、特別支援学校のスクールバスを追加運行します。

学校衛生環境緊急対策事業費 3億700万円

拡) 特別支援学校のスクールバスの過密化を防止します。

特別支援学校スクールバスの増便

- ・スクールバスの過密化を防止するため、運行の増便を年度末まで延長します。

中高生夢舞台開催支援事業費 2,800万円

新) 全国大会の中止等を受けて、中高生の部活動の集大成として開催される京都府内の独自大会について、感染防止対策の経費や会場借上等にかかる経費を支援します。

府立図書館新型コロナウイルス感染症対策費 2,000万円

新) 感染防止対策を充実させ、安心して図書館を利用できる環境を整備します。

- ・ 閲覧席等にパーテーションや衝立を設置
- ・ 表紙等の消毒を実施するため、閲覧や貸出の多い図書20万冊にビニール製透明ブックカバーを装着



高校生等修学支援事業費 5,100万円

拡) 「奨学のための給付金」制度を拡大し、家庭でオンライン学習を行う際の通信費を支援します。

スマート農業実践教育事業費 8,000万円

新) 地域農業の即戦力となる人材を育成するため、府立農業系高校において省力化に資するスマート農業機械を導入し、実践的な教育を実施します。

- ・ 農業分野
直進アシスト付きトラクター、ラジコン草刈り機、コンバイン 等
- ・ 園芸分野
畝立て機、培土機、トレンチャー 等
- ・ 畜産分野
超音波画像診断装置





学校教育課では、小中学生向けの家庭学習用教材「京都府教育委員会からの挑戦状」を作成しています。この「挑戦状」は、管内の学校の休業が長期化する中、家庭学習用の教材として公開したコンテンツです。

休業期間が長期になる中、学校からの課題や公開されているコンテンツが、どうしても知識・技能にかたよってしまう傾向がありました。その中であっても、課題解決型学習を取り入れた、正解がひとつではない問いを課題として出題し、教科の学習と普段の生活や将来の生活とのかかわりを感じられれば、との思いを込めました。

課題の作成には、大きく2つの点に留意しています。1つは、児童・生徒の皆さんが自分自身の力で学びに向かえるような課題であること、もう1つは、振り返り、学び直したときに、自身で考えの深まりや考え方の変化が感じられるような課題であることです。

このような課題に取り組むことを通して、思考力、判断力、表現力だけでなく、学びに向かう力をはぐくんでもらいたいと考えています。

このように、「挑戦状」は、新しい学びの形を提示することができたのではないかと思います。学校の授業が再開してからも、課題のさらなる充実を図り、新学習指導要領の趣旨に繋がるコンテンツとして、児童・生徒の皆さんが「学びの価値や意義」を感じ、学びに向かう力をはぐくむことができるような環境を構築していきたいと考えています。

[京都府教育委員会からの挑戦状にはこちらからアクセスできます！](#)

府立特別支援学校 生活・学習応援サイト「まなびのバイキング」



府立特別支援学校の教員が作成した5分程度の動画をYouTubeにアップし、まとめて見やすくしたサイトです。

子どもたちがそのときの興味関心に応じて内容を選択し、わかりやすい動画を繰り返し見ることで教科学習はもちろんのこと、自立活動や生活単元学習など、ご家庭で幅の広い「まなび」を行えるよう工夫しました。

たとえば、夏野菜の育て方をクイズも交えながら教員が実践する動画や、コンピューターグラフィックの動物を探しながら、学校内を探検できる動画といったユニークなものも掲載しています。



約90本の
いろいろな動画
があります♪



[まなびのバイキングにはこちらからアクセスできます！](#)

**令和2年度9月補正予算については、
こちらからアクセスできます！**